



清新二中だより

本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人 (敬愛)
- 2 進んで学び、深く考える人 (知性)
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人 (健康)
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人 (責任)
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人 (礼節)

声 変 わ り

校長 白石 亨

師走になると寒さがめっきり厳しくなり、校庭の木々の紅葉は一層紅くなる。

紅く染まった葉は落葉し、木々は着実に冬支度^{ふゆじたく}をすすめ、早くも来春への備えをはじめているが、本校生徒も同様に来春を見据えている。いよいよ3年生は卒業後の進路選択が佳境に入ってきている。

先日も定期考査が行われたが、3年生にとっては進路を決めていく上での大切なテスト。校門前で登校の様子を見ていたが「にわか二宮金次郎」がたくさんあらわれた。登校時間を惜しんで歩きながらノートを見たり、プリントを手にしたりする3年生が多かった。最後の最後まで必死になってテストに臨もうとする気持ちがその姿に表れていた。先生方にとっては、自分の希望する進路の実現に向けて精いっぱい努力している生徒の姿が見られるときほど大きな喜びはない。3年生の誰もがこの時期、自分自身を見詰め直し、考え、暗中模索し、不安を抱きながら将来のことを思う。それが進路だと思ふ。

そして入試に向けての校長面接もスタートする。

生徒にとって面接練習は大切だが、実は校長にとっても貴重な機会になっている。生徒との直接対話が少ない校長にとっては、面接を行うことで3年生への新たな気付きや発見があるからだ。

例えば前任校での話で恐縮だが、とびきり元気な女子生徒と面接練習を行ったことがある。

いつも声高でとても賑やかな女子であった。クラスの中で男子と言い争う場面も目にしたが、圧倒的な迫力^{まさた}で瞬く間に男子を駆逐^{くちく}していた。とても勢いがあり雄弁な点はいいなあ…と思われるのだが、その反面、言葉遣いや振る舞いにはかなり乱暴な面も見られ、多くの先生方から心配される存在だった。

そして、この女子との面接練習となり、日頃の素行が思い出され心配したのだが、開始早々「えっ」と驚きの声が出そうになった。校長室に入る際、折目正しく挨拶をし、丁寧な敬語を使い、落ち着き払った声で答弁をしてくれた。高校への志望理由も明瞭で、入学後の抱負も確固たるものがあつた。話す内容は実に的確で非の打ち所がない。しつとりとした物腰の対応はまるで別人のように感じられた。翌日、この女子から話を聴いたのだが「私、勉強ができないから…私立A学園の単願入試にかけているんです…」との言葉が返ってきた。面接に備えて自分なりに研究し、家の人にも協力してもらい練習を繰り返してきたのだという。

原則、男子は、ある日一日を境にして、子供の声から男性の声になる。野太い声になる。青年期の声変わりである。そこへゆくと女の子は、生まれたときから女性の声なのだが、この面接をとおして、中には声変わりをする女子もいるのだと発見させられた。「声変わり」との表現は妥当ではないかも知れないが、そう思わせるほどに、言葉遣い、立ち振る舞い、しぐさが格別に立派であり、大人の雰囲気^{きんぎ}を醸し出していた。

面接入試は、多くの生徒にとって初めての経験となる。

面接では自分が他者から、意図的に観られること、評価されることを初めて意識する機会となる。もちろん華美に自分を取り繕う必要はないが、一歩でも二歩でも自分をよく見せようとする努力は必要だと思ふ。日頃の自分の在り方を振り返り、自分に足りないところ、十分でない点に気付くことが大人への第一歩だからだ。

男子も女子も、3年生は面接という選ばれる立場の中で、必然的に子供から大人への精神的な声変わりが求められる。年の瀬は、木々の葉が色を変えるだけでなく、3年生の声色も大人へと変容させるのである。